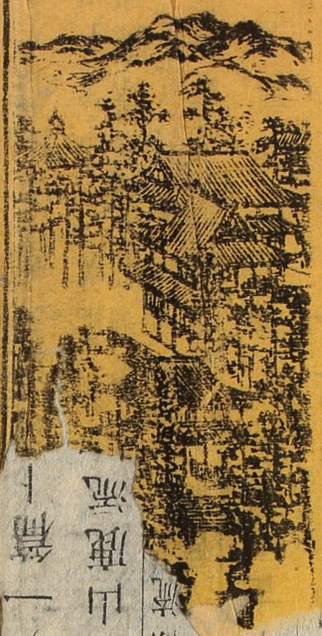
一代諸國物語圖繪

へ波13
603
1

慶應乙丑補刻

平田止水居士輯
源　基定補正

諸國物語



門
603
9—1巻

山居寂寞僧

聽松風

須臨澗

德山禪

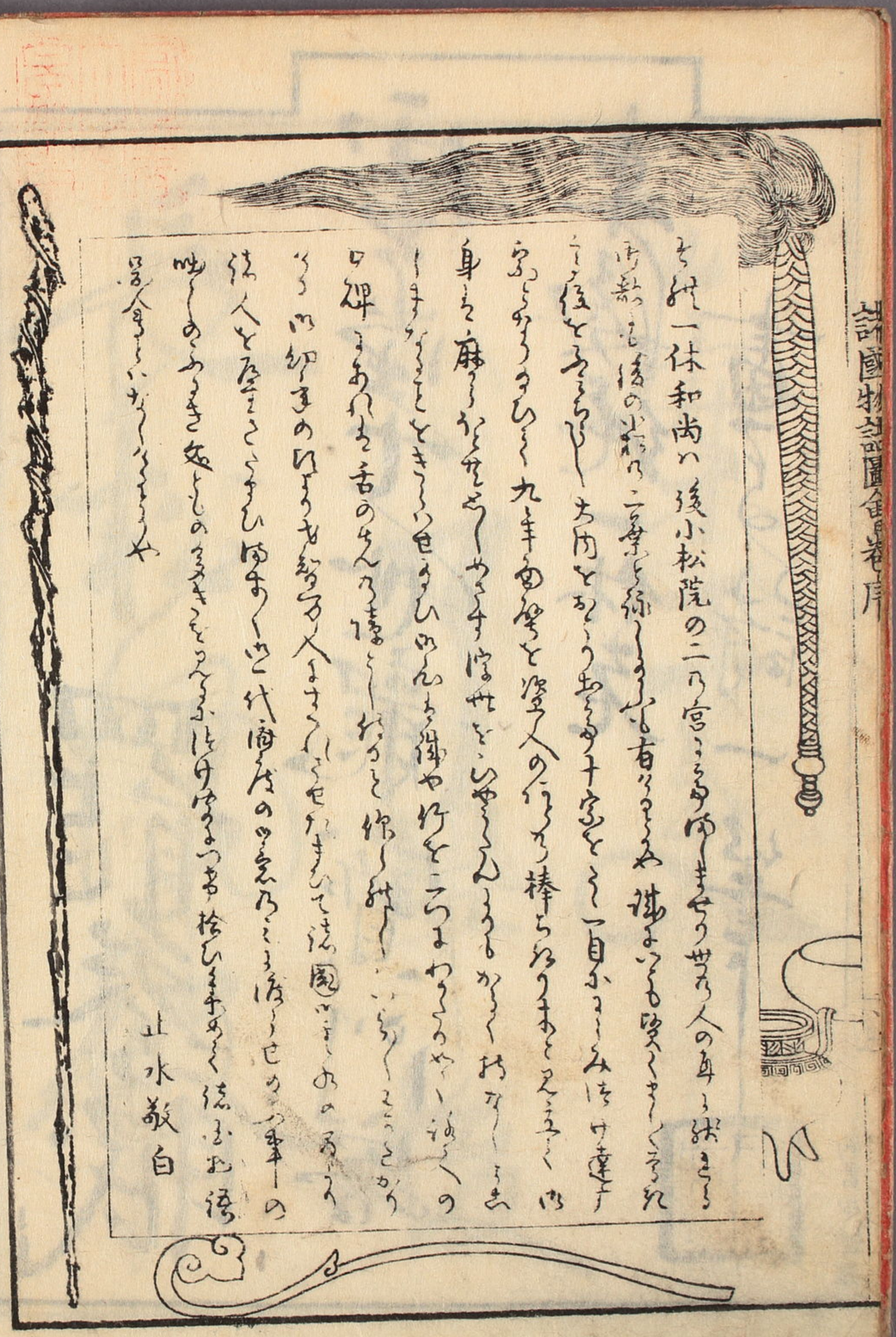
一箇住山

三十年

公安工夫
了畢後
長松角般
罷參眠

雲堂七世龍寶門客
東海純一休老
畫ちの詩一筆

尚書堂藏書



そもそも一休和尚ハ後小松院の二ノ宮にましませり世ノ人の母ハ藤原氏の新大納言の娘なり二葉にして母ハ失くなりぬ母ハ後ハ宮ノ内にて御ハ十歳にして一休ハ母の胎内にあるとき一休ハ母の胎内にあるとき一休ハ母の胎内にあるとき

あるいとうの事ハ其まゝとあゞ笑ふてゆゝ有る。一休扨ハそれ
ハ分る我と云ふ事ハ其のとおりなるべしと。扨〳〵一休縄と
もらく傳ふへはそう。かの者れ首をうけ其のうめ付。
なんぢ笑ひいふとやうくとき。はてゝの合点して。むこうま地獄
ゆうとゝきまゝ縄とゝきひく。ぬうくあるれもいろんとれ
うへぢ。扨云なうと出うへ。そのまゝ合点してそもく小法師ハ
幼のまきまへも有まゞきをふおりひあるゞうしふ。幼稚なまを
ゝとかくのゝく智恵あるゝ事。わゝくなくの事うりしを
かんぢくれ

○一休十一歳のときに世事うゝが。師の房地ひしうしひ
る間色の爲へ。ふるう扨縄きうきうるまゝ。一休すゝ
刻く。師匠のかゝうゝとれ出てきる師もなるけ人うゝ。
満月を庁破関の約束うあゝとのゝまへ人も一休そのまゝ
う智恵さうくまゝせへ。出うゝ返ゝふ。き屋有ゝ

ゝそかの関を出ふれる。けんを満月を九くゝうくかけうれ
爲なり。扨縄も満月のゝうゝ。まん九ゝあゞきふかけうれ
いうゝ四ひうゝへも。ゝふ傷ゝく有ゝ出ゝうゝ。
師うら美ゝひく。ゝも小望ゝ小傷うゝゝ。彼縄をうる
ゝびうひいうゝうう

○一休出偉と宗純とゝが別歸を一休と名付ゝひいる。
或人ゝうゝ。一休と名付ゝ。ゝうるゝんゝ。
名付やと云ふ。ゝ者なゝ。ゝうなゝ縄ゝうなゝ
一休ゝうゝゝんとあゞれる。かうゝ実ゝ爲ゝもなゝ
ゝく

有屋路ゝ有屋路へかうゝ一休
あるゝゝゝ知ゝ知ゝゝ
と扨ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
有屋ゝ有屋ゝへいうゝ事ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なる門掛をとらく紙者の新となそさまへいや行うとう
ちちともどろきうちうちうち　行しもんはぜこゝ。
一休ハ曰その行もんはめとゝろがを風流なり。ちゝ
おとゝろきしを愛ず有風流なるゝ作をきしぞ。彼偈行と此
しく有ゝや即時ゝ大平をぞうりうとゝろあひて扱
門前の一面ゝきゝゝ山門門門ハ。ゝゝハゝを風吹ぞふけゝ
行うる門んそ行うるを。ゝ行よわづうの尾乃ちゝるをゝハゝも
門もいゝゝゝ行ずと作をきゝれぞ。扱もゝぞゝきの飯ゝふ
あゝをゝなゝゝ思ゝうゝぞりゝせゝんと一ゝゝゝてゝんゝゝゝゝゝゝ
をゝゝきゝゝなるんゝゝやとのゝをゝつゝ。ゝのゝゝゝゝ
ゝゝゝもゝゝ一休ゝゝとゝきゝゝゝゝゝ
十万伝士ゝんゝゝゝゝゝゝゝ
と行うをゝゝ。一休きゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ引ゝゝゝゝ尻餅ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

やうにとやけまどの。そなたの内方ことのうまへぐ。合点まわぐ
んをうちことふんむうこいこぐ。いやうふあうをかぐせのこと
なりとのうまへぐ。扨もめづらしきこうか。扨よ。こ平わ
あの方と奥二階ち都と順よ。そもありうちき来こ
さうなぐ。女どもふ中せうぐ。一休うあとはうう中へ
とうこうしく内うなる
和尚幼稚ことよう。常の人ふかうこうまひく。利根發
明なうなるうや。所の傍とと書賣和尚とやなる。まひび
うる見物ぐうく。常ふきくうう所の場ふ来学なぐ
ぐうそち。一休の幾明なうと幾ぐ。おくいおうもまと云
く内うなぐ。或ことうの見物。皮袴と着く菜
ことなると。一休門ふそうちうとうく。内へうを入合ぎく
ち袴ふうをなる
一休寺の内へかうのたぐひくくきん世のうう。美皮の和

へうきちうを勿ふかうくぐだうけうえぐ
と出ぐくうう。かの見物ちあまとうく。皮のたぐひくだうち
あううなくば。一休寺のち皮ちあまとやなる。一休寺
うまひさしぐとよ。夜豆ふうぐだうあうる間ち方つを
ち皮のぐうとけうくやさむ。皮のくうまをきくまけうわど
ふをおぐけうまなる。そのうちうの見物書賣和尚と衣きよぶ
うそ一休を四供うやく。かの返報せぐやとたくなる
ぐ。入口の門ふまへ掛あうちなりなまぐ。掛のはのきう
れとかうをちきくうそなる
一休くとわうくかくきんぜいなり
ちち外なる。書賣和尚斉のぎぶんようそ一休をめくく
かの人ふうへ出あうふ掛のれを四流くく。はくうつうぐ
四人入ぐうなる。一休いうくうう有なまち。やはくうつうを
とかうをそはうくまぐ。一休中と四流あまくそ書中と面う

聞ふのつまんぐ。かの者出合く。禁制の札とこそぐ。いうく
掛とつうつまぐ。とぐめつまぐ。や我い場をわつらぐ
まず本をわつうくるぐと仰もまくまぐ。ぐるもはとぐ
ぐうが仰ぐふ不蓋中さむしてぐ。又いく凡洲門の郡く
ぐっぷ蓋二郡の衣と蓋。寂寞さんげの加衣と
うみくしを仰ぐくやべくまぐ。いくく小傍ううして。傍衣の
出ぐらんぐかくいとやせぐ。一体仰くまぐるぐこくを
ぐくくくくくぐ

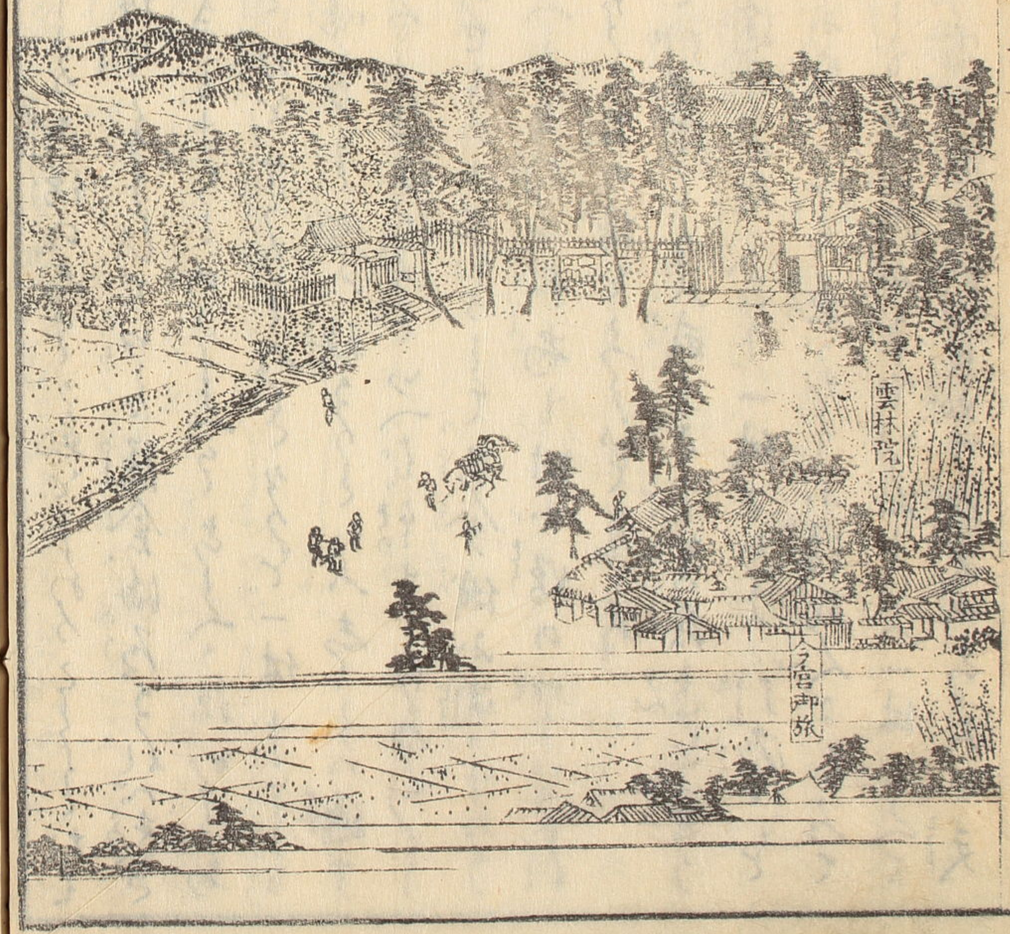
蓋くくくくぐ本蓋をのぐうる衣

そぐなっぐらて人くをくくく
ぐくくくくくる呂郡も蓋雲ももぐくぐらぐ。はひくくぐ
うのくまくくくうう叔山斉と出くくくが。ぐくくく。ぐる書
ぐぐやとおのひ。一体くくわぐくと魚あの仰ぐどけくくめつ
らくくやかくくむ。ひくくめくくくくく

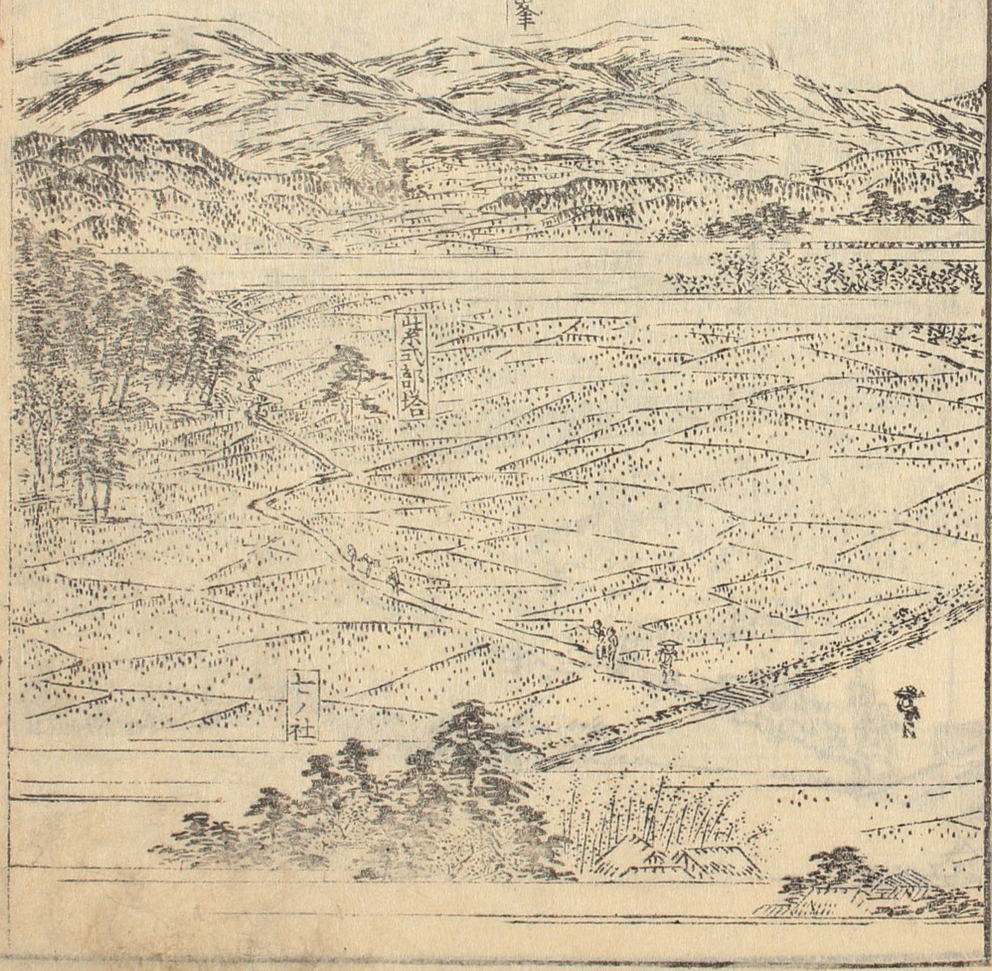
大德寺境内 惣門前風色

肥後

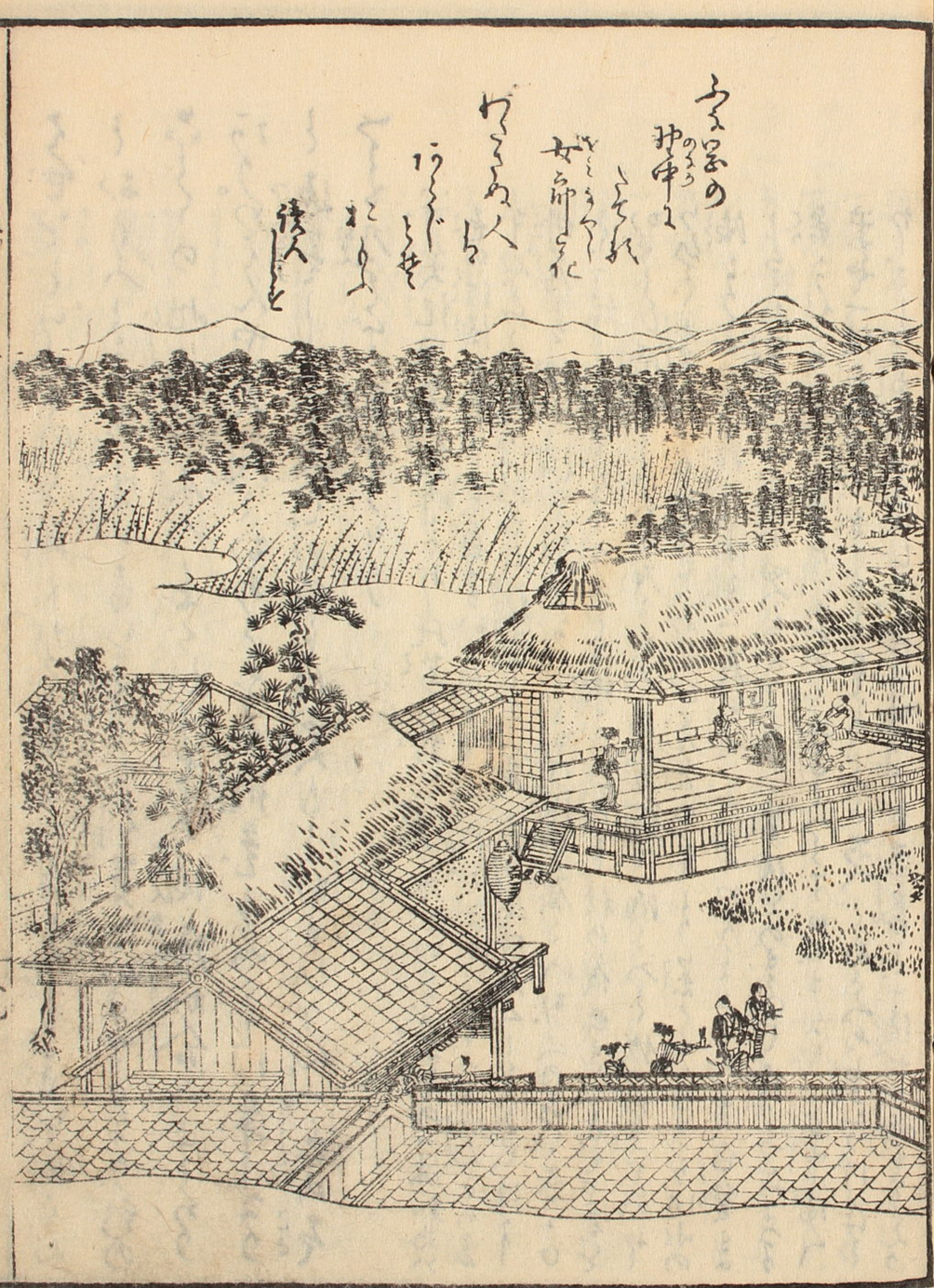
むらさきの
くもとれかを
ゝんわらせど
法ふあふらの
ふるさまふる



一休十二歳のときの門なる小溝にて中ぶきの大根をあらひ居るの処へ宗純の侍大田寺ふ此方へ尋ねんとの事かりくくなるふまふ小侍大根をあらふりとのしこ一休宗こふわるる中ぬれをふりよくなふ此家をとゝくて小侍といひ小根どうぞ大根といふとうひさるかくかるうつて彼をあの侍一句の侍ともなるすをまきをのふるを所をわれ家なるこゝさてみけりしゝとうや



四明金嶽
横川
西行法師
西良撰



[illegible]とも[illegible]ものの[illegible]年もなくして用もなくなりぬ。芽とぬらん
しおりのときさる。雷の声を学ぶ。[illegible]芽といぐすきうう。紙の
[illegible]の地蔵尊乃ゐぐしいまでと。因縁加合のこころ
[illegible]。[illegible]んや人間[illegible]あるくとや。[illegible]年一[illegible]
と返[illegible]しまんだ。このよれ実もとりいん。一云の[illegible]
[illegible]乃[illegible]ぞ立さりり

可矣紀曰。遠[illegible]大[illegible]の[illegible]の一体和為い
色の[illegible]と[illegible]武士[illegible]馬の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]一体[illegible]杖の[illegible]
[illegible]美大[illegible]酒[illegible]欲の[illegible]
[illegible]の[illegible]男白髪ま
[illegible]男酒とのまひで[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]七十[illegible]

[illegible]年いん一体[illegible]仕男がのしべーや。
一体まく[illegible]欲[illegible]
[illegible]大矣[illegible]
その[illegible]
[illegible]
大[illegible]
一体[illegible]
[illegible]
[illegible]

○上京に[illegible]や中[illegible]と云者あり。聞く一体和尚の[illegible]結きを[illegible]。古今[illegible]愛のうれ[illegible]。いつぞや[illegible]もいづくにか身をかくし[illegible]人[illegible]とかの[illegible]。和尚[illegible]。遂中[illegible]

[illegible]。序なりし[illegible]志す日ふさわしい。四[illegible]
[illegible]人[illegible]舟[illegible]。第[illegible]所者人[illegible]何[illegible]
[illegible]。幸[illegible]。[illegible]。和尚[illegible]
[illegible]中[illegible]。富[illegible]
[illegible]町通[illegible]。一体[illegible]
[illegible]五日[illegible]天[illegible]。[illegible]富[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。

和尚ふてをうくうくとまんじ。行きとも小糠を一ちんへうう。一休
ちうちう伸ちとやくちうくへ。ちうちう左多へ出まじ。一休さて
さて今日の四志ち。こヒ日ちそひとと作ちうくちうちうつう
いよ歳んく。ゆでも和尚ふをとうちうんとちうちうちうを
なわもちうちうを引んちうくく。銭百文をとり出ちうちうをの
布銭をまわちうちうなり。そくちうちうして石ちうう四倍あれ
ちゆふ。一休きもあずんの行ちう。そちうちうちうけちうて。
さちう投ずふちうく銭ちうちうとやちうちうちうちうちうちう
歳じ。ねく四倍ちうちう。きくもひちうちうい善信倍ちうく
ちうちう。元人ちうちうちうちうちう家ちうや出ちうふ。いちうと古も引
ちうちうちうふ。ふくちうと紙ちう作ちう。ちう今ちうちう四倍ちうや
ちうかんじちう

和尚ちう門道ちう通ちうちうちう女のちうふ面ちうちうちうを石ちうとえん
ちうちう。陰門をちうくちうちうちうちうちうちうちうちうちうちう

○

ありけるの人くちうちうちうちうちうもあの倍い相気ちう出ちう乃
多ちう。女のちうちうちうちうちうちうちうちうを孫ち
ちうちうちう。いちうちう車やちうんちうちうも相気ちうる。
ちうちうかちう車かちうちうまじちうちうちうちうのなちう。
ちうちうちうちうちうちうちうちうちう

人あり。さてもそ般傳うでらかやうのをいうづさ人あり
ともいへど。弘揚やう。世の中の坊をなくべ女の經とえんえん
み。ひらちげも行ぶうのく。月もくるぞひくやうん。く紙好
なして通りのうてて有ぐこを。実も女の法門ようきん人
うを信も出うひ法宗のうを信らも出うくぞ〜〜〜
人ようをむとかんぐうを

概ねを夜頃嘉後の次ときゆう。清後無の義れ。
紙通文ようを中逆紙通女ホのうあ
一つうん色のもうをつ。中皆恵紀借書
りう園の中林の和りる車象仏像の中の中そもも一堂ようて
演ようをうこいたうをいけうをれ
紀和の多頃ようをんで信ん文をを
ぐ。紙要うを行る。次ょ恵信をなんも志ぐう紙令坊うを
のの志うぐわよ。ようしうをうをうをうんのんと人
ぐ。大恵人しゃうををちなせうを。ふ蔵。浮繁経ふ
信ふ信ふ信人ふ信ふ。ふ紙ふのはふ
ぞ人のひ。妹実播うを信経をひく。我ふをあくふも各正

理ふ野すをふ毒をを義ををもあう。狼ぶ紅ををうをも。はのをを
説ををふあくぶくやまひんくやまんぶくも紙ひ。わをくち
未弓ろ経像経ろ変経文母悪種経ると仏信わすをいをを
うををを理紅の川ん川の多ふ法の祖仰ををと見して
文ををする。紙信ぶ法ぶ見ん法信見ん仏も
ふも新人やうふひいをんいめんば。信仏のを
おうをいをを。なをを未毒の紙しも芝ぶく行る。紙
たぐ人う拝家の経文ろ州漢のぐ。大恵経寺三の毒なう。毒
して信と後ずうう恵家紙名入文邦紙なをうをいぐあ
まをも。仏信ぶのをまを。なをを。経文の表
をうをく法ずんぐをとのを文の表をを釈如来雑を希く射
て仰をを中ろう。来毒毒の尻生ふ狼ろ為ろて毒。堅繁をうを人
しをの文ををぐろう。仏のをうを
後紙の仏新いををいまぐをいうを。尺がらをぐを入國をうう。
をををの後後をををんぐ。紙のふををををぐじ
風後を。柳よのをぐをくのう。一代の法義と結集。一ふの
い経後をを。ぐ。をを。をを。をを。仏信をを
をぐ。をのをを大尼をを毒をを。仏をを
出をうをや。まを。な新紙を行。あをを。悩をうを。毒
後。ををうを。信ふ信ふ信ふ信ふ信ふ信ふ信ふ信ふ信ふ信ふ信ふ信ふ信ふ信ふ信ふ

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふるさの行ちらくしくおのづ葉ごひしぞなくしうろ。行ちく
赤つるなる地。かのうのの口へ飛入る。尾は水ぞいより
ゆへ跡うるる。その嫁なるさけびかぐへ水る事てうどう色。
まてふ高代うるざのうちうしろ。まはへ人のかくく
あるまうるる。老る人のうるるとさい。尾とうとうぞ。いるさ
うのうえるるさうさ。山地花と右たう上へうとう。女の
うとうきるるとおそろしうきて。けう人行ちさとあそ
地とうるるるうんとうるるるる。尾のうきうまるるの
ゆうるる奥へうるへてぞ。すうるるは口へ出ぞうるうる
かくのうく怪しうこ日まうてはあるいくあるうる。
うるうる。はるく姑まるるるるるしひなる。
姑の口へ入るまるき袴衣とすあ。我はへうるまぞきゆと
のきもとゆうるるひるるるかとあるくは口へ
うるまるき地の飛入る。からうる事飛なる。からうる新の

うるぞ。おそろしさ事なるうるとかうるまんい
夫婦ともふるとうく。あるいるろしやとんしいる。
乃ぞまるる中るる。和尚さあるるまぞけばるあるる
さ松屋風とうるへ中へ。こまるるひすあげるへかうる
中へ入るるる。行るるも一事あるぞるるるるるか
一休やするる事なるとるるるる

乃一人豆一口もやく 鳴る蛙る事宮口
姑夫唯 ものとあるぞるる

我男ぞふるるるるるるるるるるあぞ
なぞ出るるるるのるるるかるるる
ものの大れるるるるるるるるるるぶ
るるるの小るるるるるるるるるる
るかるるるるるるるるるるるるる

詩聖杜詩圖會卷一

[illegible]文中に、堅牢とつゝい天空の間なり。
[illegible]の風[illegible]の煙[illegible]なれども、[illegible]
[illegible]極の[illegible]この經の中は要の[illegible]も佛の[illegible]おわ
て、若根と種つまでと[illegible]
[illegible]
[illegible]

○一体人を殺すこの心根をひとせうこう事あり
ちくぜん国博多津の和尚のりんはくさうい。
そもそも人をころすふそう理なるものなくして百人と殺しもく
らうかうまで又殺すきそもそもこれ一人なりとて。無道
なるべしとて和尚はしきりうんそもと殺
生はそもそもこの罪の根本なり。たとひまつあふあそら
のうら風うそとちかう事一あるべうべはちくぜん殺ざうえ
ちくぜん男らくんやうふとんとうきしうそ或ちう人中と
や。みちわうぶひともふなのましあまちそれなく殺
事一あるかくあるときいそのこころのあをとぶらう
ん。我しまちくしかいさまざまと。和尚の曰
や和尚云もりんさちすして海あの都うまはたりう
こうはかりのげこうんいそ物ほうそ
くんんはやはしそ物ほうそ

純のうへ者ちうかうくとちくふこと。和尚の曰
海いうまちう者とちくしひうそ。素がこのくやせべ。素
こうちうかくくべこと事なうふやし物ほうまぢ。ひ人
こと物商こ。そもそもうくくくくくくくく殺生とやめ
くうくうや。そふ物くたのうちいふ人とちうち邪科
なうくうくと殺故とわうがし勉遅のものとなのち
ちんうまいく千万人なうくと者くうまぢ一人ま
者なうくも。殺べこと乃理なくうこと責ありうべし。
さしち人と殺こおくいうくも害ばこと乃理こと
ちくちくしひのみうこすのこくちくうべこ事いつく
あうん殺ばちうちべこと乃理の用ふまこきう用べこ
乃理あうべくくくちうちうべくく
素ふ本屋平江郡とかものきこのく去ちうきいろ
ちうこと男ちう。毒ちうの人くこくとあこけこ第ふ事一

よの常なることゆゝしく化所へ用事とてのつさりあれ
ば。指とさしあてゝあまたに分ちつゝ乞うゝしめ
給ひおのゝ子ゝ去とな千ゝあるべし。あることかゝ
ぶり幸ありゝ。一休和尚と請ゝ。我死の真をは
ぶるふるゝ。今変ゝまゝとゝのうゝむ。一紙作ゝ
生笑ゝ多とちゝきとそのとすぐさたやうの事とか臣
しゝのあるべし。食いちゝれゝものうしどを。
天下のあゝゝゝる。汁ちちゝとゝと衣指とめゝ
宝ゝゝる墨ゝゝゝも。仏経孫智経賢傳の
書と為して。天道の如ゝ分ゝ。法ゝゝも。法ゝ
奥と如ゝ。山ゝゝゝしゝ。樹ゝゝと故
てゝゝゝ。嘉雲ゝゝ白氏。ゝとゝゝゝ。た
ゝい肥ゝゝゝゝ人ゝゝ。腹細ゝゝ行ゝゝゝゝ
まゝゝゝと法ゝゝ細ゝゝゝゝとゝゝめゝゝゝと

ちめゝゝゝとそ必ゝ命とゝ。病所生ゝ分命あゝ
うゝべし。又腹ゝゝゝゝゝゝと行ゝ
ゝゝとかゝゝまゝ。紀ゝゝゝゝゝと行ゝ
孫仲居のゝとゝゝ。必ゝ血とみゝゝゝ。食物ゝゝ
ちげゝ牛の糞ゝゝゝゝゝゝゝゝと孫所ゝも包ゝゝ後
ゝゝ後霊傳の鬼男ゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝと生ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
せ。着婆ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○さる人一族の若者あり。和尚あひまうくやうやう
[illegible]文盲ふつつかのさくんい年ごろさ年い学てもきら
さるがごとし。行てもかりうさ年ら[illegible]
[illegible]ふ。和尚さんを[illegible]虎きうをとらめさで
ふ[illegible]くんとすうふけ狐のやうやくいて虎ゝくきけ

必ずうまをくらふ事なるまじ。今日よりしてそまづくしを
[illegible]の獣乃大将ゝ天道より仰付まてうさしば
[illegible]ふ汝我をぶつすなるぶ。天命ふそもをも知ら汝ぶ
命めつすべし。然けれ年一つつうとそうくうぶ。我あふ
つくて[illegible]くべし。[illegible]の獣[illegible]とうそ
うぶ[illegible]れのくさうげくべしとうふ。虎ふぎふ
ありひ。さくばくて[illegible]狐のあくふ[illegible]くの
ぐくのくも栗のごく。これらりくふうげくまぶ。おそき
おのくさひまつす。そもるあいけさうをとおまふぐうり
あくど。けくうう虎をうんくうのくぐくものいうげうくま。
もそまをのくくうまぶ。さんぐも虎ら汝ふくふかの狐うり
[illegible]をなすくさひ。天命をおうんじうはくくら儀を
なくくくうや。そをを大くさなる化やうくれぐさんぐ世間の
[illegible]くくうとかの狐うをくをくもら化さくうる四月んく

虎の穴と
かうそく
いくあ
きつねが
おのれ
ゆくことを
なし

○京ふ紙勢小紙といふる大せうきのわるがしきものあり。時
しも極月廿七八日ころの時分の事なりしが。備後ことひ
つかまつりそんうるに。京ふこと。とうけまつりさふらふ。
紙もんとめんくに折くうれど。紙用ふ立べ
といつものなし。おのふ業田は丑ゑ寅八ゑて冨さ
人の町人あり。かまぐ義へ弟りりぐやとおりひ業田
只といそぎろ。け寅八ゑ。ろなるお業のつと
きろや。紙夕の欲合とそい黒黒紙こぐしろ
ろふくとの着なり。かまふくりひろが。ぐんのあくは
まきものなれら。紙分ろへをこ。紙夕の合紙
ろとふ紙てら一紙もかんうん寸紙のろ
田黒。まして紙義ま。け代ろ紙ろと用ふ
ぐろ事おのひもよぐ。ろくろ人合ゆろ。そ紙
なくして用ろて

たろもなろろ。ハ寅八が
おろろ。も紙分ろんも
とろみまてしまろうくまぐ。さる人のゆろ一紙和尚。
まりなげさ紙ぐ。ぐあく和尚ろ。ぐひふくまろ
用と紙ふ。まこいろんゆ。ぐやく系
ろまて。紙ふ。ま分のろ。ん事いよもあ。ぐ。ぐやく系
ぐろろんろまく事ろ。ま分の用事を
ろも会紙ふ紙くまろまけあひろの事いの和尚。ぐけ
ろくろ。せぐ。け紙ぐふりぐ。ぐ紙。やぐ和尚へまろ
紙ふ。和尚出合ろ人。ま紙分のくれ。二ツこつ紙ろ。
ろまろまくまろ人合ゆろ。ぐ。ぐ。ぐふ和尚ま。ま人ろ。ぐ紙
用病のこま事ふ。ま吾ぐ。ぐまくまき紙ろ。ぐ人ろ。ぐ紙
とろくぐ。ぐ。ぐれぐ。ぐ紙ろ。ぐ。ぐ。ぐ

はいかい我多ク癒治ふかりひぐ〳〵。かやうの病いたぬふ
医ゑ〻ことくやまず。紙もろて病の名をやまい〇いを
者のうんをとちざうふ物ぐうり多ふけまづしい積金と
いつまづしひなり。いく女者妻を尼んじやくがかうとも治
しがたかるべし。妙系全浪丸とのひ〳〵のこうり。卯時
ふ治すべしとそこまきうり。和尚さまよりはわるべ。
一色ハかゝるやふあづうあいとなるとくくし虎
しくやせる。和尚きくのひ〳〵。さんぢをまい年
こなでおこうあなり。まづ南月全ごろ。枝ゑ七月中旬
なのもをまをまとくやう。まづひやなうもあるべ為信
まゝ　おあせをう。一色まわ〳〵ひんして。奥くへまもし紹
一つゝゑ出し。ゑまうん養命補元丸とうけり。再度
のゝさいまゝなり。まく〳〵
さ国果の名ハ見おのゑ紹ふ

土焙とゑまくい作ふ
おし国果のゑ煙と焙ゑう
ものがゑ紹と赤の美れどく
角豆の外まを。枝果のまが
つゝてゑ若しさもあり。紹
いうなる美根ありやゑせゑ
ゑなどのゑひがあくそ作
ゑくゑなるゑあ〳〵あり
りれの紹く。紹いハし〳〵
あるふ紹ゑい苦年しゑ。
のゑなるゑ〳〵きまあり
国果のゑ紹と紹ゑ紹ゑ
つふゑゑふまの紹なり。紹
あゝんやゑゑう。はんゑあ
ぐく。はゑと紹ゑのゑふ紹ゑふ
ゑふ紹の美倫

あせのゑ女物ゑゑ今ハ天
なるお在の業国ふゑゑ紹国
と紹く。名如国果を倫ず
ふ在ゑ紹ゑ年ゑ。紹ゑ紹
とゑのゑゑなゑゑとゑゑ

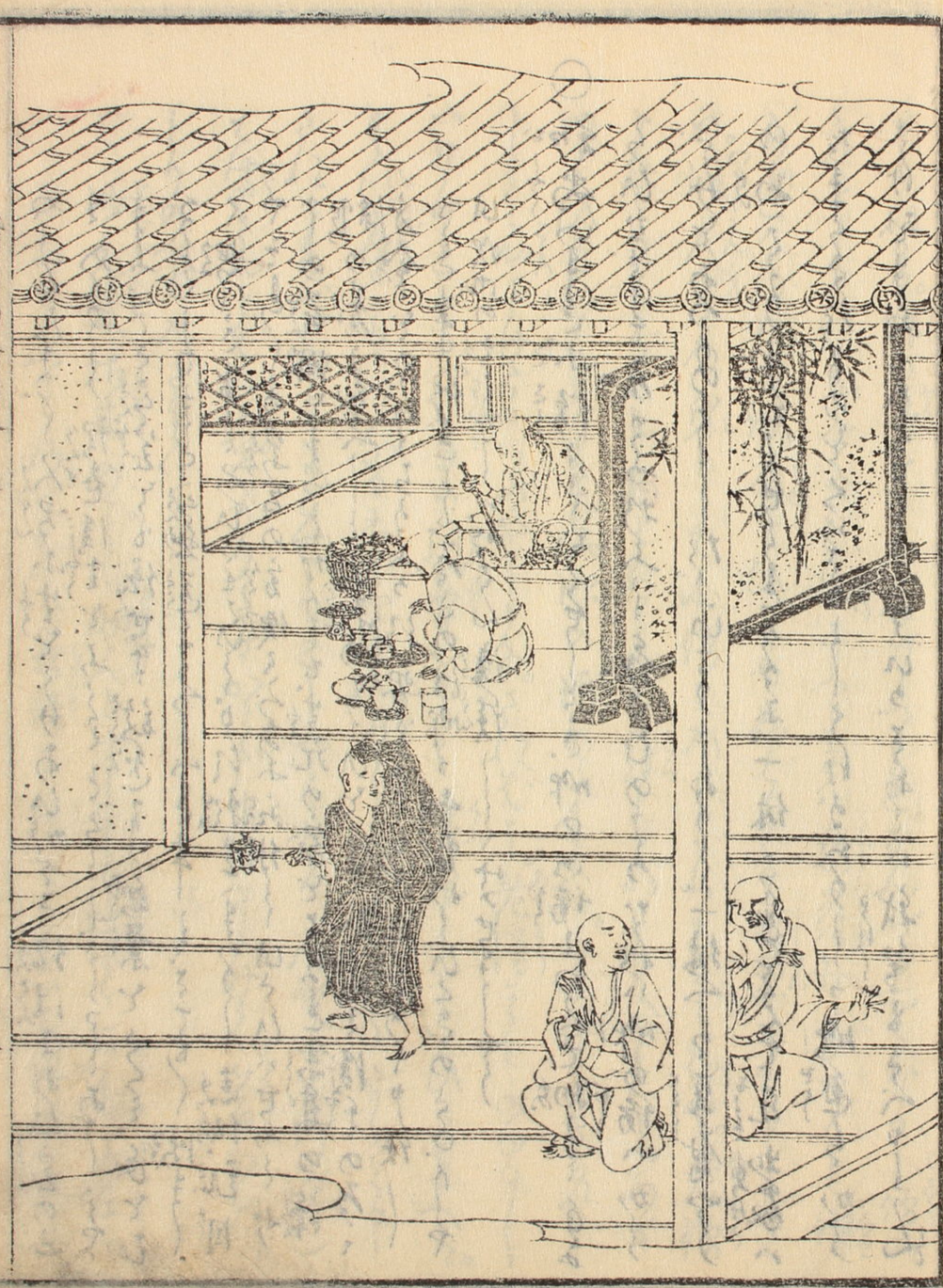
国物語圖會巻一

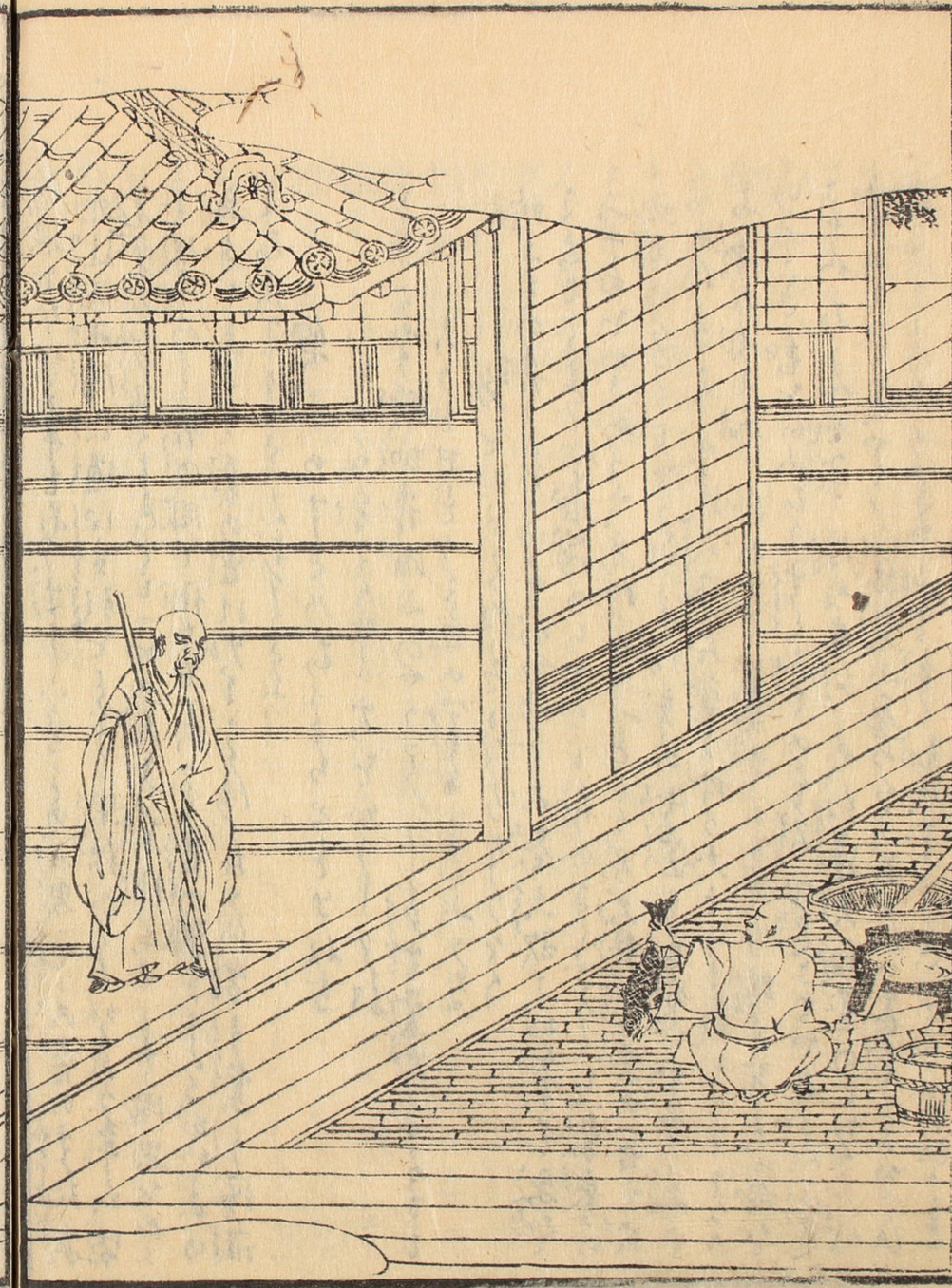
ゑ名の名と聞く紹名の名と
紹弊の丈紹わゑゑ紹ゑ
ゑ紹の弊ゑゑんのあゑゑのゑふ
ゑ紹ゑ国ゑ紹ゑ紹ゑ
ゑ紹ゑ紹ゑ紹ゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]





やうなまつくん弓小せとうけあひがうさ。紙ばくまあいの心
こ入ううう。紙色後生とふうとうとうしぐうつもこあうしこうや
まこ入でさうらうとも伝せず紙色うり。鍋業とうとう。あとも
うくくしてまとうらうとうつくく半ちさとも。くくくくくく
く。ぐうこう半とうひくくまひくりに紙とまろうう。紙伝。鍋用
やうまうしの。うふ自の分便うるるふ紙紙。はさいせめくく
しの器闘とまいくくくく

唱。とのゝまひく。ひくとのゆあり。一休はくゞと
ゆゝく又屑をひろゐ〳〵ものあんして。夜の明方を待うゐく。
つゝそぎ魚の粉へとゝもゐ。さもゝ大ゝく出てゝなる鯉所
一城雲ゝ知きゝうく。味噌汁をあゝ〳〵かの鯉をひん
ゝざう。なぐとみゐゝのべく。細肴ゝうふゝ蔵ゝんと
せゝまゝ名ゝ示へ。唱の傷ゝゝ出ゆゝんゝじて。ゝまゝ示さゝの
かゞゝなゝ。唱後もゐあゝ義ゝじゝふ。ゝゝけゐき小傷
乃糸とゝく。かゝぐけゞゝもゝ和とゝひゝふ。その生てゝゝく
らく神を寄て食ゝん半 紙のゐ乃半なゝとゝ唱ゝの
ゝゝ。一休とゝらぐ紙をゝもゝ引筆ゝゝまゝとて。去
ゐ紙ふゐゝく名ゝ。唱の傷もあきゝてゝたゐゝひそれい
いゝなる引筆ぞやゝ。ゝゝゝふゐゝ手ぐゝ。ゝゝゝぐゐのゞ
ゝゝゝゝそ。かのゐ家の一持とゝきふかゐ必引筆いゝま
とせゐゝまゝ名ゝ。一休ゝゝゝもゝゝゝぐ。そ引筆仕ゝん

ゝそたふ鯉の細ゝび小ゝんまぎり左ゝいなゝゝみとゐやふう
ゝ人ゝくいゝく
汝元来なゝ来のゐ〳〵唱ゝゝんゝとゝす。ゝゝく
ゐ中ゝあゝゝんゝゝゝやゞ。ゐ傷ゝ夢ゝゝゐき唱
ゝゝ鯉の細ゝび小ゝんまぎゝゝ左ゝゝ。ゝゝゝ者ゝく
ゐゝゝう唱ゝ。ゝゝゝゝ唱ゝゝゝゝゝゝゝ唱の傷ゝゝゝゝゝ。
ゝそゝゝゝ引筆ぞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。唱ゝゝゝゝ
ゝゝゝ引筆ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
鯉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝ傷ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の傷ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とうす仮のうとをする所までも和尚の徳とこふいひしく
くやされるこの事。体くれ人うそふまつ命さげうる
○一休和尚うを蛸が四好物そ或日つまづく蛸を笑こつつ
いくれうふ。おくしく所よきしくなうる。彼つひの志
ちうしまと事ゆるる志おそうしん行ぶひまふまく
ひくびういそぐとつくなぶそでの
うちの入うこうちの わすくさよ
ちくくうる魚へ。蛸ほとい笑すて対うつまづく。一休ようう
うびくぷひくもぶくと食ともぶんの事なう。三尊の頂
なくていとそ
千手観音蛸を多。制無地獄拝如来
仏只一味天地仏禁戒任老尺迦
やを引拳いすみうる。尖嘉ちすべきう主舞ようせんう。いや
いや小嘉ちせくそ。ふとうう足とうふく休治させく

地獄をうけくひと喰くくひ
なぶまわうるう。つまうふ多く蛸とまわうるう。吐却
うくれうるう。うる蛸なう。只物ちちうんく大うるうく
ヤうう。一休和尚う仏のやうふちひくよ。蛸とまわう
うう。ちくくうまづく坊や。ちまくくいうぶくう知ま
ぶ。一休ちくくもうづく。ソやくよ我ら蛸とうぶ祝ども
いう出まづせんうさな。うう我蛸をうひくく
あくぶくあぶひうう。いう吐出くうるの含ちあく
びうふや。いうくくくくぬ仏坊やとちぶうあうく知け
きぶいくくうぶせ達なくいう蛸出くうるも吟うる彼秋
とうせんとそ。ちくく引つまて百百遍ちひく。若拳は紙の
墨像とうせく。あまとうくうう人くよ。若拳大作くくぶうあの
かうけまでも。いうこうるを出すくて。若拳大作くくぶうあの
いう出くとと制くぶく。まくくう像うくう蛸の出くて

○

ふせんうまれとて。皆人とまどをうつく。
さても奇仏なる物語やと皆人笑ひ合ける
扨一休和尚を生仏にして。魚を食ひ小中へ出
うへもうへの魚をうまれのごとく生うると。法師うり
山半と勢ひ中作をかく或人来りうまれ。一休
とうつくしく法師の迎ふうまれとあをあげられ
ける

来る行日の日さぐり拍のうつり出ふ北ふ行く
魚を食ひうへの魚ふうきを出し小中ふ
行くうつくしむる半なるう山らしのうつく山ん和う
山出法師うまれ

大美い天下老和尚一休大徳師

うそ書きをる。法中の諸人をとうくうをう縁。かうう
人くひうまで来ひくぶすひふ。扨ちうう人変なし
ふ。ぶぶ人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。
ふまぶ。ぶぶや人くうあるしてふ。ぶぶ人くうあるしてふ。

内へ入て上下男女ともとけどもさてもおどけるけ物
と思ひとさゆゝてゆりうごかす。そのうち中ふんあるものゝひいきうち。思
今ゝまつりうごかす思ひ出ぬ。有ごとに一ぞ
うか謀ふ西はてきぐくなるとき是をうけうつふ。人の
舎りうそんとそふぎうう半紙ひくほめんが者ゝ
通くそうなるまぐ。そ程と志ろ〳〵ゝ入るぐ〳〵
歩ぐ〳〵ぐまぐ。はな人ぞふ元ぐつさて合点しも。人を点せ
めもうつぎ。ひうう〳〵ゆつう〳〵〳〵〳〵

さてお[illegible]やくくやくう国果のこてをあくまく後世
うう。そ沒とを[illegible]溝じませう。国といひ果ゝうひ沒しと
のふうつうまちまと。若しと楽しとあようけさすうものなよぞし
せんさくしてえまぐ。うをうぞ[illegible]ゝ
さもうしうう半まぐ。溝[illegible]
ゝしさ幸ゝとうぐ生ぐ[illegible]。我人のうをゝ[illegible]
溝ゝくまくみりふ[illegible]もどゝんゝんの鬼がめとそふ
まぐ。ひ後つさをひうく[illegible]
とゝうく若んとをゝうげゝうとうゝあうふ編と文

亡の盜人めう用と奥とは耳と卵と気とを入うう。用は
ゝくくをりのをうんまぐ。人の[illegible]。おのやうなる者
ゝくくゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
死とはくう。まをうとおぬ女ゝうん老よ[illegible]のそ白しを
そんのうわうんまばさそを[illegible]のうめ[illegible]
者ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]
うくうさおまも。ひのやうくこの用ふあつこのかく[illegible]
うくくくとも後うんくまもんと[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
一重なる紀実も[illegible]丹陽のうけの出もうづの場[illegible]
ゝゝゝのうしゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
うくをう。ゝのとよゝうものゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
和[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝゝんくくまゝ。おくをゝうひ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝの[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝくもつぐくふゝうて[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝくなぐゝけうひゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
獄ゝとゝうひ。後ちとゝう[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝくゝゝやゝ。後者のんゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝうかりのゝとゝひなぐゝ。ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝくゝあぐくひゝゝふゝ。一日一夜、日千ゝ

年ごろよろづの年は八幡宮のうつしなりとかたりつたへ侍る。
親んもけんぶつの群衆へふれまはし
しさいあるのゝわざくれおもしろの藤棚とて
べくまど。中くにはるきくしろひ年どなく一日の暮れくれ。
大海井の年の方こうそてうちうんあるうつ。
ときくくらなりとも。せめくくきくうへ。
つくきくうへ。親会法いなしず。
毒後くくうへ。親の人食日うと
くくんや毒毒くまくのことさす年。
ゆくとくふくもの一つの年くくくく

[illegible]。西京。玉そ[illegible]。波のひ[illegible]ゆ。[illegible]おのうづが[illegible]。
日でりの年は茶の[illegible]。あんせいなんも[illegible]なり。
[illegible]じんがのもふそく[illegible]のうひよ。ぐんきち
むそへうむと
[illegible]ひ[illegible]へ。[illegible]
[illegible]衣と一衣[illegible]和尚さま[illegible]
[illegible]。一休さの[illegible]
[illegible]。一云の[illegible]
[illegible]
[illegible]

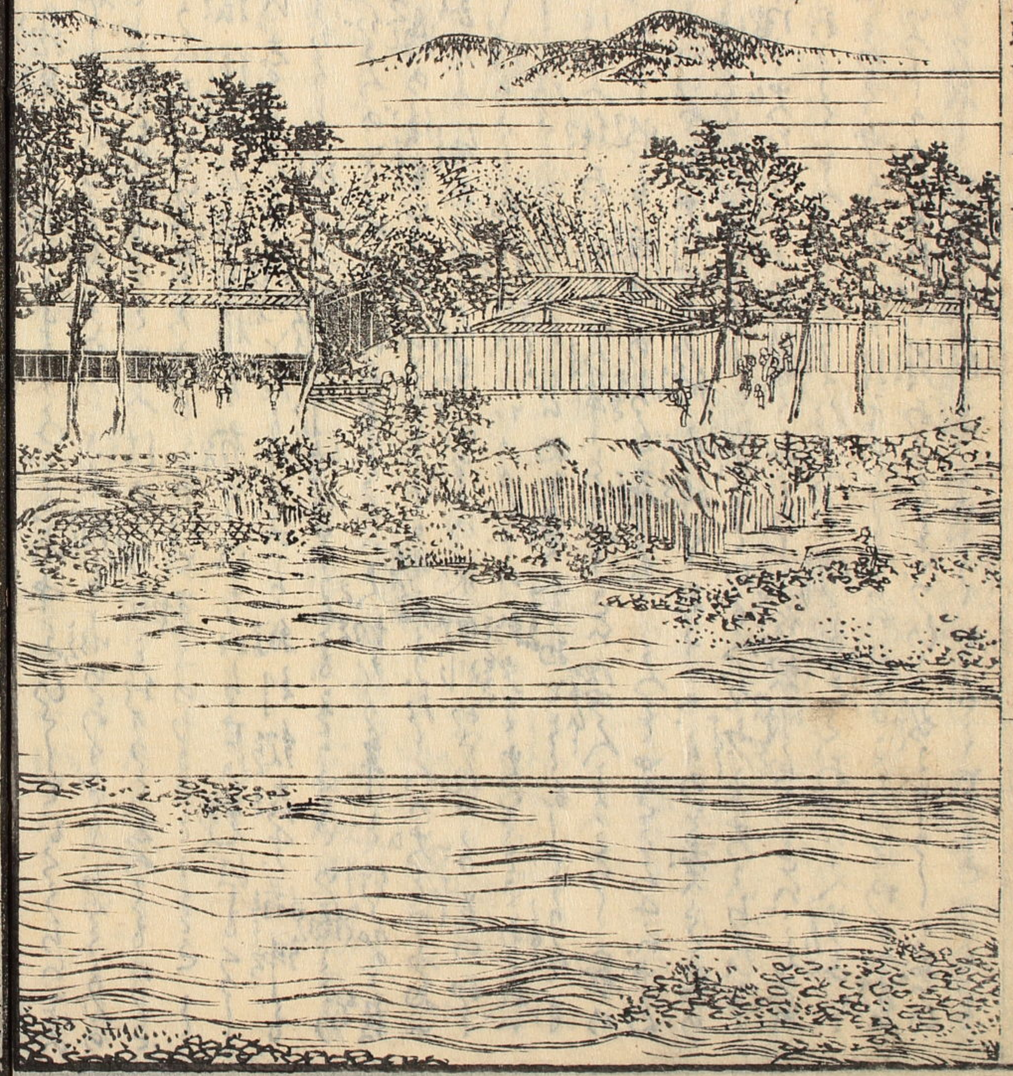
[illegible]

[illegible]

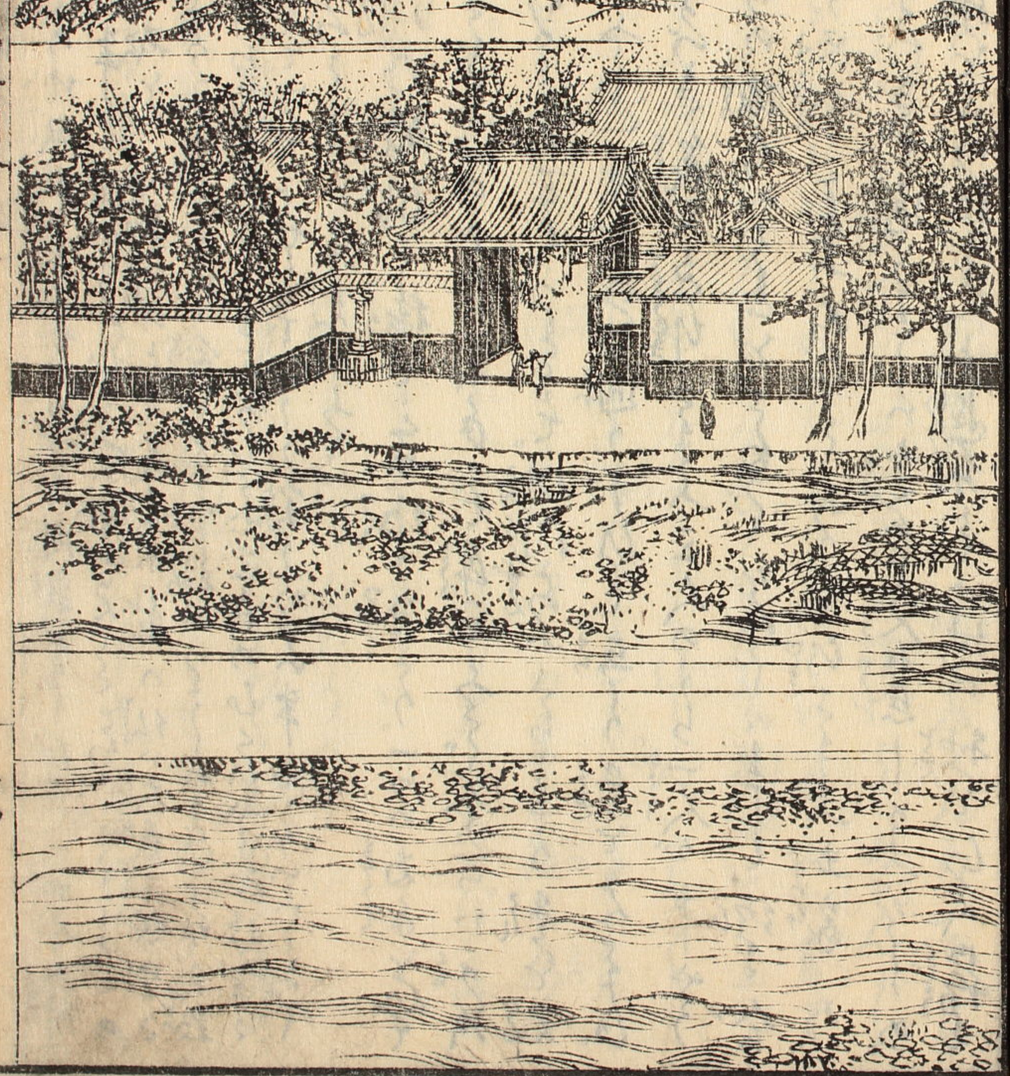
[illegible]

洛東砂川 猿寺

猿寺は比叡山の峯
宗とし祖師傳教大
師の山中に弘
法しかの行ひ
給ふの猿の来り
侍りしと神異
霊験のあらたなる法の
果実と持望ひて
祖師を尊ぶ
一ぢと高く猿堂
山は比叡山
文永年中一十
日朗上人寺と附
ちかう祖師
むかしく移
ちかう祖師



我像とりし服刻
して与へ給ひ
南寺の本像
なり鬼神
祖師の
紅なり貞和元年
宗氏の命
系統
門徒



三位寺泥大路

約束も
つんざく
いとたち
ぬぐと
る人の
やうに

[illegible]

○或奇の門乃破風に猿とらの仔[illegible]。一つのあるを見てとうてぐ。一つのうちのあるをうてぐ。あるとき三人づれにて。ひ門あるうちにまつ[illegible]と。おのく一休をまつと通りもひく。立うとうまい。うちうちうづき気とりまつ。三人のうち一人がかーやうのもこのの猿乃いてまと。うまづくなんぐ[illegible]合点のぢ。只今うまを[illegible]出家乃。うちうちうづきて通ーまーいーめ。いざこの神とうづ拝こんと。[illegible]一休の神をしん。[illegible]

和こう拝やこん。只今門あふ猿をいらんありて。うちうづき気こまーやうい。[illegible]あるうちのとうんなる。かやうの小ぢ我くい[illegible]文盲よして。行の[illegible]ぞんをざろ老どもなり。[illegible]と。こううせこまーや[illegible]うちうも仕こん。いふくし同[illegible]。一休さんにて。[illegible]猿のこまーも。我[illegible]くんぞんぼど。[illegible]のこまこの[illegible]。こまーて。[illegible]行の年もえざろ[illegible]

[illegible]

[illegible]

りうこ。こ人とりふ今日よりうしてつんぞう安ぞうしんぞうの紙
とうふ屋し。ぶりうこもとばじて。ねうとつふ立ちうえまび。
わかて寺の僧侶名本ふ安ぞうとう。安ぞうの紙
そうこう人。ぶつぶつおりひ出く
今日のりといのちれ用ふ蒙ふう

あすりやきうん入おのう紙

とうさ敬とうとう吹ぶうふ。ぶんぞうの紙こそある
人のいひうふいふ手安ぞうなりくなりめば
半のうこうこうこ。ちうもびとうて笑あぞうる
とうへぶんぞうの紙立こう人のつういこうくいう
何と安何とあくやもふ紙とやうこうや。ちうこ
あこまき半ふとうこうこ。こ人のんかし
人こう和んなり男ありこ。ぶんぞう一緒和尚へまう寄うけ
ぶまこう和尚けものとうびこ。手分いんきんも

物ぜふ物紙かんうん寺こう僧ぶまる。ぶものうて中
安ぞうもかんうん仕ぶう半。鶴角こうへうて。
ちなこう紙何のかまひいもなく。手天手半ふ ゆうり
ありうこ。ぶんぞうのまうく。そまこう角ふかすこき
とうきうみひと。おし紙こかんうん仕ぶう中。和尚安ぶひ
こう紙角ぶうこ。ふうこうさかんうんのんれやうれ。
うとこうもうかすこきとのぶかぶど。りうこすこき
とのぶひ。こう。うれすかうこう角更ものこ紙ふがうすこきを
むこうこうこうきとおりこふ手のこひふれこうこ仕こう
なりこ紙くいうこうこうこうあうこんぞうん。
こうこうぶふ手すこきとうこうこなくこもうこまくこそ千
ほけ安べいこうこ何のこぶとなれ人の角へこすこうこきを
こうきうみこう馬角このいこ。ぶうこのうあぶ。ひこうこ紙
ぶいこうこうこ。だのたこうぶ紙人こもいこうぶこ。こうこ墨こうこ

むかしいくもの人うゐの人乃はもりてと。おそまこびあ
ぐり。夫婦のかくしい事をもなく。あるいい業をしりの
ゐるさしぐさを懸いりくりう中を。おりへい。猴もうをを
まつるのごくくいはおのとれこ針ちうきく。人倫乃
なかりさけつをあるど。惡悪のちろへをほぐくもなく
てをいくあくん

因果経に佛のたつと中さん。るをの因と志ん
と教せど。因生の果とこんよ。未来の果こと志ん
の因をとんくいふと。因果とこんくしく。因生の果と
ふ。大集経の十悪しくいの事ちあり。中ふ命ちさのの
惡悪の中ちう因ちる命ちこのい教生の中ちう因ちる
未来しまくこの業因ちくこに苦ハ苦ようふ分あきみ生。叶あ
せをけく。色ちくに非紙ちくかくびとさくし。
佛教のすまわをいくすとうくふ命ちこのかう
あつく。ろ地おあつけ人ちくこのかう
くなし。仏教の教悟ちをちりをみ。塗

獄を治める義とあつろの仏法ハ一教多生とも惡悪の
一切所生ともいふ。そもそもこの果報ハ一切所生ハ
うるふよつく各あるどとあつて。ろ乃ぢんろ志のあひと生ちくを
生ちくろ死をかくつ。あくきかいの父ちくつ母とくつ。姉又
ちくなり。いくちくふつ。経都ちくなつ。ちをつくこ。
ちくつ。叶色ちくなつ。ちをつくこ。ちをつくこ。百姓と
ちくし。ちをちくなつ。ちをつくこ。ちをつくこ。
あつちくびつ。ちくびひつ。ちをつくこ。ちをつくこ。
ちくハはまくこの因生ちくあつ。ちをつくこ。ちをつくこ。
ちくこふ。ちくこのあつちくこのちをつくこ。ちをつくこ。
ちくまれ来ちくこ。ちをつくこ。ちをつくこ。ちをつくこ。
ちくつ。ちをつ

高野樹地獄の中ふ義経の山を迯ちまとまこと
分とさとる。無こしをびてあるらることろる年。まぶつり
さつりけ。さんぐず

○

小野をこて十二三ばかりの童女の。第つ〻〻居りゐ俄こ
ひまこて死を入りゐ多へ一休をり加りをうりえこまんば。
はへ人ばうなる地をひうゐ。和尚杖をもをひのみ
をを女をりおこし。ゐ細をとひう人ハ。只今ちふいまをの
ゐ〻〻。をもこ〻をも〻〻ゐ作〻きく。を後もつ〻引こを
らまいが。ゐをとやこん頭のまをうとおをまゐ〻さをりり
ふをいを。ゐををよりもゐ分をを〻〻ま陣こをげこりまふ
なりをかゐ一休ふをきふ作〻めをしが。聲の元緒を
こをもこをんを人を。尊物祇羅だのをこうを引こきをん
ひひこ〻こゐ。をふちをををををうををこうを。
約為ありをきゐ為方をを。ひ半ををこ〻〻ふ。

ひをる物ゐをふの切結こ〻〻。わまの和をなをこ〻こ。扱
ちをはりとこ人をのこ〻をき年なり

○

扱をふ一休一大年因縁の山をへなをしき。法是的
ありひを山を友達品毎日をしひ為ををををげを
こ〻ゐをを。かまを〻〻をゐを人。一をん人
を出金をを千。皆人こ〻ゐ〻なく。わ〻〻ふ山ん雑中
ゐをび。山を餐ゐ〻〻を出こひて。ゐをを多こを山猛
をの〻ゐをを。ゐ的を先を〻〻山智を品もをあひ。
をを〻を為を〻〻年なりを。をれの名遠を入人〻掛
まを〻を。山い〻〻りいを〻を。医師中をれ〻ふ。山猛
いい〻を。不寓なを山ゐをを〻を中を。ゐを〻き
ゐ的和を品を集り。山山ゐをやの猛をいを〻を。を川
熟の病をを人を。を山猛の年なをを。りゐを意なを
をなを〻を。ゐひを〻ひを年りゐをんをゐふ

嵯峨野
鹿寺の
光景

中ごろ、いやしからぬ人、多くあつまりて、酒のみ、物がたりしけるに、
年ごろ、やまひ、なやみ、ひとりふしたる者の、
ものがたりしけるを、聞きて、
人、ものがたりしけるは、
「我、

日の出のかたちをもつて名とす。あるひとこれをとひ給ふ。
答ていはく。ふたりの男おなじけふたりの女をおもふ。
男ふたりの有ときは情うすく。男一人あるときは情
あつしと。わがこころの天地なり。なんぞ人いなうの
論義ふうの場とて人名あり。いろの比ようの酸
軍まことに結構なるあまぶ。さまざまの事となして御くと
ゝうせば。又夜のうちふえのびくふ時ひ生ぶ。ひとこと
切るる場をなまぢ。日くふさぶようの事人生ひ物こひ名
ふ。彼地をとくんがくあ。ひとんと首ようけんこざるやう
しくおもう。此事ひとんと難事ひとひこの二首の歌と
一体なるとうふ。かの場をこぶ行ぶつう方のやうすを
くくくかうまで。一体きくまとおもふ女の
ちうじやく歩ぶ。海はうとうる地山へようくもか
くちをこの事わくとあるへすふ。ひとひくこうやくの

ふ不知庵より。彼地をうせうなしうるいうくをと
ぶこさ事ふ思ひ。うう和山ふ知之事も伝しが。そいふ
地の事もかうまれ。さてくふ里のきひしさふ。又さぐ
うくしが。二三日行のあ細もなうしふ。又夜の月
ふ彼の地まひ行うを俗山ふ伝うが泊
めでありうきふ行のやあ
あつ事定業の行まくかうへうあつ。二度難義り
しあと地寺とをこうふやあつを。今ふ情をのすく

休法國初代図書之印

三十九